

よぼうせつしゅにかかあんけーとけつかについで 予防接種に関わるアンケート結果について

1 調査の目的

川崎区では、全国の中でも子どもの予防接種率が低いという課題がある。子どもの予防接種について、理解を深めてもらう方法を検討する参考資料とすることを目的として実施した。

2 調査の方法

(1) 調査対象学年、学校、人数

ア 小学校6年生：計521

中央地区	人数	大師地区	人数	田島地区	人数
宮前	132	川中島	76	渡田	90
旭町	42	藤崎	120	さくら	61

イ 中学校3年生：計509

中央地区	人数	大師地区	人数	田島地区	人数
富士見	234	川中島	204	桜本	71

(2) 調査期間 平成25年10月1日～31日

3 調査項目

- 接種した（していない）予防接種・理由について
- 予防接種の情報の入手方法について
- 将来的な予防接種の接種について

4 回収状況

- 小学校 有効回収数：402 標本（有効回収率：77.1%）
- 中学校 有効回収数：240 標本（有効回収率：47.2%）

5 傾向

- 日本脳炎ワクチンの接種率は小学生でも中学生でも低い傾向であった。ADEM（急性散在性脳脊髄炎）の発生により平成17年5月に国から積極的な接種勧奨を控える通知があった影響が考えられる。
- 子宮頸がん予防ワクチンの接種率が中学生で低く見られるが、統計に含んでいる男子を半数と仮定すると接種率はそれほど低くはない。小学生の接種率は、平成25年4月から定期予防接種の対象となっただけであり、6月の国の通知により、積極的な接種の勧奨を差し控えていた影響が考えられる。
- 接種が望ましい年齢が高い予防接種ほど接種率が下がる。
- 接種した理由では、ほとんどの予防接種で「病気を予防できるから」「接種するのは当然」「行政からの案内を見たから」の順になっている。
- 接種していない理由では、「接種を考えていた時期を逃した」が多い。
- 予防接種の情報の入手方法は「区役所からの通知」が最も多い。
- 将来的な情報の入手方法も「区役所からの通知」が最も多い。